

平成二十六年 度

四天王寺中学校入学試験問題

国語

注意 ○ 答えはすべて解答用紙に書きなさい。

○ 字数制限のある答えは句読点・記号も一字とします。

一次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

インド人のサティシュ・クマールさんは、自分のお母さんのことを話すのが好きだ。環境問題や社会問題について考える大人のための学校「シューマツハー・カレッジ」をつくったり、雑誌「リサーチエンス」を発行したりして、世界中で尊敬を集めているクマールさん。その彼が、①インドの田舎に暮らし、読み書きもできなかった母親こそ、自分にとっても偉大な先生だった、というのだ。

少年時代のクマールさんの何よりの楽しみはお母さんといっしょに過ごす時間。特に、お母さんが、農場と家庭でのさまざまな仕事の合間に時間を見つけては、縫いものをしたり、刺繍をしたりするのを見るのが大好きだった。

あるとき、お母さんは長い間かけてやつとできあがった肩かけを、娘のスラジにプレゼントした。娘、つまりクマールさんのお姉さんは大喜びして、こういった。

「素敵なお母さんね、お母さん。やわらかくてあざやかで。みんなが見るように、壁の目立つところにかけておくわ。よごすといけないから着ないようにする。何かをこぼしたら大変だし」

娘がこんなふうに自分の作品をほめるのを聞いて、でも、②お母さんはうれしくないようだった。彼女はこう答えた。肩かけは肩にかけるためのもの。壁をかざるためじゃなくて、お前に着てもらうためのシヨールなのだよ、と。

お母さんによれば、美しいものは使うためにあるのだし、使うものは頑丈で長もちするだけでなく、美しくなければならなかった。クマールさんは思い出す。たしかに壁には何もかかっていなかったけれど、ぼくたちが家で使うものは家具でも道具でも靴でもみんなしっかりとした手作りで、使いこまれ、どれも美しかったな、と。

お母さんのきげんをなおそうと思ったのだろう、スラジ姉さんはこう続けた。

「お母さんのお裁縫はともきれいだけど、一つのものを作るのに半年や一年、ときにはもっと長い時間がかかるわ。最近と同じことをあつという間にやっしてしまう性能の良いミシンがあるのよ。私が探してあげようか」

「どうして？」と聞き返す母親に、スラジは、③時間を節約するために、と答えた。それを聞いたお母さんは、こんなおセッキョウを始めた。

「時間が足りなくなるとでもいうの？　ねえお前、永遠っていう言葉を聞いたことある？　神様は時間を作るとき、たつぷりとたくさん作ったのよ。……私にとつて、時間は使い果たしてしまうものじゃなくて、いつもやって来るものなのよ。いつだって明日があり、来週があり、来月があり、来年があり、来世さえあるのよ。なぜ急ぐのかしら」

スラジ姉さんは④まだ納得できないようすで、反論した。でも便利なものを使って、手間をハブいて時間を節約したほうがいいんじゃない？　そうすれば、もっとほかのことを、もっとたくさんできるようにになるんだから、と。

お母さんはこんなふうに答えた。時間といういくら使ってもなくならないものがあるのに、それではまだ足りないといって、わざわざ⑤使えばなくなってしまうものを使いたがっているようにしか私には思えないのよ、と。

「ミシンは金属から作られていて、世界には限られた量の金属しかないわ。それに、金属を得るためには掘り出さなければならない。機械を作るためには工場が必要で、工場を作るには、もっと多くの有限な材料が必要なのよ。掘るということは暴力だし、工場も暴力に満ちているわ！　どれだけ多くの生物が殺され、金属を掘るため地下深くもぐるような仕事でどれだけ多くの人が苦しまなければならないで

しよう！……なぜ自分の便利さのために、彼らを苦しめなければならないの？」

⑥ これを聞いて、スラジはやつとわかったというように大きくうなずいた。お母さんは気をよくしてさらにこんな話を続けた。

お母さんはね、針を動かしているときほどこころが休まることはないの。でも機械にせかされるようになったらおしまい。それに、機械があれば仕事が減るなんていうのはうそだと私は思う。年に一枚か二枚のショールでよかったのに、こんどは十枚のショールをつくるためにあぐく働くことになるのがおち。そうなれば前よりずっと多くの布が必要になるしね。「時間を節約したとしても、余った時間で何をするというの？ 仕事の喜びは私の宝物みたいなものなのよ」

本当のアーティストって、きつとこのお母さんみたいな人のことをいうんだな。さて、きみも時間がかかるのをいやがらずに、次のようなことをやってみたらどうだろう。男か女かなんて、この際、あまり関係ない。きつときみも、働く楽しさを自分の宝物とするような⑦ ホンモノのアーティストになれるはずだ。

機械のかわりに道具と自分の手をつかつていろんなものをつくる。絵をかくても彫刻ちやうくをしても大工仕事をしてもいい。畑や田んぼの手伝いをする。台所に入り出して食事の手伝いをする。針仕事をする。ぞうきんを縫つても、刺繍をしても、毛糸を編んでもいい。テレビを消して家族の団らんを楽しむ。ローソクで食事する。水筒みづとうに好きな飲みものをいれて、どこへでももっていく。ガーデニングを手伝う。自分で育てた野菜を食べる……。

問1 ——線 a b のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 ——線①とありますが、お母さんが「もつとも偉大な先生」だったのはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 使うものは美しく頑丈で長もちするものでなければならぬということを教えてくれたから。  
イ 道具と手を使って働き、暮らすなかで喜びを見いだすという人間の生き方を示してくれたから。

ウ 時間はなくなるものではなく、神様が永遠の時間を作ってくれたということを示してくれたから。

エ 自分の便利さを追い求めたら、多くの人が苦しまなければならないということを教えてくれたから。

問3 ——線②とありますが、何が「うれしくないようだった」のですか。三十字以内で説明しなさい。

問4 ——線③とはどのような考え方ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 同じ結果が得られるのなら、短い時間でできるほうがよい。

イ 結果にかかわらずなく、かかる時間は短ければ短いほどよい。

ウ できあがりがいである上に、時間がかからないのがよい。

エ 仕上がりが悪くなってしまいうなら、かかる時間は長くてよい。

問5 ——線④とありますが、なぜ「納得できない」のですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア お母さんの作ってくれたショールを大切にかざりたいと思っているのに、理解してくれないから。

イ はやく作れるようにお母さんにミシンを買ってあげたいのに、きげんが悪くて好意が通じないから。

ウ スラジ姉さん自身が時間が足りなくなったことによって、困ったことがこれまでに何度もあったから。

エ 時間を節約して自由に使える時間を作ることによって、ほかのことがたくさんできると思っているから。

問6 ——線⑤は、スラジのどのことばに対して言ったものですか。十字以内で抜き出しなさい。

問7 ——線⑥とありますが、この時のスラジの気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 美しいショールを作ってくれたことに感謝し、心の通ったおだやかな時間を過ごしたい。

イ お母さんのきげんを直すのが今は一番大事なので、お母さんの話を理解することが必要だ。

ウ お母さんと自分では「便利」という考え方が全くちがうので、いくら話し合っても無理だ。

エ お母さんの具体的な説明を聞き、お母さんは何を大事にして生きているのかがよくわかった。

問8 ——線⑦とは、どのような人ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 手間ひまをかけることを積極的に楽しみ、そのような毎日の生活を大切にしようとする人。

イ 他の人にはない個性を常に追い求めて、時間をおしまずにそれを形として表現していく人。

ウ 大量生産では得られない価値を大切にし、みんなに手作りの良さを広めていこうとする人。

エ 機械を使わないで道具と自分の手を使ってものを作ることにだけに、喜びを見出している人。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「夏休みの二週間とまりにきてほしい」——お父さんがカナダに転勤になり、家族で行くことが決まった夏、静おばさんが、いきなりそう言ってきた。なつみはおばさんには小さいときに一度しか会ったことがなく、しかもこわくて泣き出した思い出がある。おばさんの家に一人とまりに行くことをいやがるなつみに、お父さんは、「おばさんは楽しい人でよく会っていたのに、なぜめったに会わなくなってしまったのかを知りたい」と言う。「なぜあたしに?」「おばさんが変わった秘密って?」なつみはしぶしぶ行くことになった。

おばさんとの夕ごはんは、いつもの通りだった。ただ、テーブルの上に、この二週間であたしが「おいしいつ、これ」と思わずさげんだものが、みんなならんでいた。

イサキのおさしみ、帆立貝のクリーム煮、トコブシの煮つけ、エビのサラダ……。

お皿あらいは、いつも通り、あたしがした。あたし、二週間、ずっと後片づけした。①おかあさんが知ったら、おどろきすぎて、なんにもいえないくらいだと思う。

さいごのお皿を、あらいかこの中において、居間にいくと、おばさんの姿がなかった。

カーテンがゆれている。

あ、ベランダだ。

「なつみ、ちよつと来てごらんなさい」

よばれて、カーテンをくぐった。

「ほら……」

「あっ」

ふだん夜には暗くて見えなくなる三角の海が、はつきり見えていた。ちようどま上に、お月さま。そして、小さな三角のまん中に、月の光が、金色のすじになって、きらきらしていた。

「海の上に、光の道があるみたいでしょ」

「うん。金色の道」

「ときどき、あの上、歩いてみたい、って思うのよ」

「うん。あたしも歩きたい」

何日か前から、気がつくど、おばさんと、部屋の中でもふつうに話せるようになっていた。

それからしばらく、ふたりでベランダのさくにもたれて、海をながめていた。あたしはちようど、さくにひじをのせられる。

あの金色の道、歩いていたら、まるでお月さままでのぼれそう……。

「なつみが、ここに来た日にいったこと、話さなくちゃね」

とても自然に、おばさんがいった。

やっぱり、おぼえていたんだ。

「意味が、よくわからなかったら、聞くだけでいいわ」

1

「わたしはね、十三年前、仕事をやめて、ここに越してきたとき、決心してたことがあったの。これからは、わたしの生活しよう、他の人をたよらないで、わたしひとりできる生活しよう、って」

2

「た「つつばる」っていうことなんだ。」

3

「だからね、むかしはなかよしかった、なつみのおとうさんとも、めったに会わないようにしていた。

そしたらね、一度、お正月に、なつみもいっしょに、ここに来たことがあったでしょ」

「うん。そのときのこと、ほんのちよつと、おぼえている」

「そのとき、居間に入って来たおたん、なつみが、わたしに、にこつと笑ってくれたのよ」

4

「その笑い顔みたおたん、心の中が、じいんとあつたかくなつてね、何年も続けていた決心がぐらあつとゆれて……。なつみとなかよくなりたい、って思ったのよ。心から」

「……」

「でも、わたしがつてがんこだから、決心がくずれないように、あわててわざとうんとこわい顔を作つてしまったの。そしたら、なつみ、わあつと泣きだして……」

5

あたしが泣いた理由。あのときの、つめたい空気の理由。

「なつみが泣いたしゅんかん、ああ、どうしよう、つて思った。なつみの心をきずつけた。この小さな子に、とつてもひどいことをしてしまつたつて。すなおに笑いかえせばよかった、つて……」

泣いたのはあたしなのに、②そのときのおばさんの気持ち、わかる気がした。

「でも、もうとにかえしがつかなくて……。なつみたちが帰つたあと、すぐに、今のことはわすれよう、と思つたわ。そしてその日の後も、決心したくらし方は変えなかった。それが、一番わたしらしいと思えたし。だけどね、この春、ぐうぜん、うしおくんに会つて、※ハルさんに会つて、※哲ちゃん※洋子ちゃんに会つて……。気がついたら、あの人たちの前では、何年も守つてきた決心がいつのまにか、ぐずぐずになつていて……」

うしおから聞いた話。おばさんが、つつばるのをやめたときの話……。

そうよね、おばさん。あの人たちといつて、つつばつてなんていられないものね。

「だから、つつばるの、やめたの?」

「思わず聞いてしまつて、③しまつた、と思つた。でも、おばさんは、きよんととして、それから、ぶつとふきだした。」

「つつばる、か。そうねえ、つつばつてたんだわね、わたし。だけど、なつみが、そういうふうになつてくれたんなら、うれしいわ」

ああ、そうだった。二週間前も、おばさんの「うれしいわ」っていうことばで、あたしのここの生活、はじまつたんだつた。

もう、三角形の海の上から、光の道は消えていたけれど、おばさんとあたしは、まだ、さくにもたれていた。

「でも、だからつて、この十三年間の生き方、他の人たちとの間では、変えるつもりはなかつたんだけど、なつみたちが、十年間もカナダへいく、つてことを聞いたとき、きゆうに、小さかつたなつみの笑顔と、泣き声を思いだしたのよ。そして、思つたの。このままじゃ、いけない、つて。あのとき、泣かしたことに、ごめんなさいをいわなくちゃ。なかなかりをしなくちゃ。カナダへいつてしまふ前に、④なつみが子どもでいるうちに、つて。それで、むりやり……。だから、ごめんね、なつみ」

何年も前のつめたい空気のこと?

こんど、ここへよんだこと?

おばさんの「ごめんね」が、どつちの意味だかわからなかつたけど、きつと両方だと思つた。

「こういうとき、なんて答えたらいいだろう。「いいのよ」つていうのも、「気にしないで」つていうのも、とつてもへんだし……。」

「おばさん。」  
A

⑤ やつと決まったことば、大当たりだったみたい。

おばさんは、月の光の中で、心からうれしそうに、にこっと笑ってくれた。

「さつ、デザートにしましょう。水ようかん、作ったのよ。まだ、へただけど」

このソファでねむるのも、今晚でお願いします。⑥ はじめての日、この「ベッド」を見て、なさけなくなつて、泣きそうになつたんだっけ。

あたし、あの日から、たつた二週間なのに、ずいぶん変わったと思う。たぶん、あした家へ帰っても、

おとうさんに、⑦ 宿題の本当の報告はしないような気がする。

「心配しないでいいんじゃないの」っていうだけで。

なぜって、おばさんの話してくれたことも、うしおがいったことも、なんだか今はまだ、だれにも話したくない気がするから。

きつとあたし、こんなふうには、少しずつ、おとうさんやおかあさんに話さないこと、できていくんだろ。大切すぎて話したくないことが……。

うん。そうね、おばさん。おばさんは、今晚、おばさんにとつてもものすごく大事なことを、あたしに、きちんと話してくれたのよね。……ありがとう、静おばさん。

※ うしお…なつみと同じ年の小学五年生の男の子。静おばさんが足をけがしていた時に助けた。

ハルさん…うしおの祖母

哲ちゃん・洋子ちゃん…うしおの両親

問1 1 5 にあてはまる最も適当なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア わけなんて聞いちゃ、いけないんだ

イ 知らなかった。そういうわけだったのか

ウ なんだろう。どんな話なんだろう

エ どうしてそんなこと決めたんだろう

オ ほんと？ おぼえてない。そのことは

問2 線①とありますが、このことから「なつみ」はふだんどんな子だと考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア うちのこととはほとんどしていない子。

イ いつもダラダラして時間を過ごしている子。

ウ 自分からどんどんお手伝いをしようとする子。

エ 食べ物の好ききらいが激しく文句ばかり言う子。

問3 線②とはどのような気持ちですか。三十字以内で答えなさい。

問4 線③とありますが、なぜそう思ったのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「つつばる」ということばは、自分とうしおとのふたりだけの秘密だったから。

イ おばさんははじめに話をしてきているのに、ふざけてからかかってしまったから。

ウ 話の最中にことばをはさむと、おばさんが気を悪くして続きを話さなくなるから。

エ なつみはこどもなのに、おばさんに「つつばる」なんて言ったら失礼だと思ったから。

問5 線④とは、どのような意味ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア おばさんに対してうらみをもたないうちに

イ おばさんを良い人だと思ってくれるうちに

ウ おばさんの話をすなおに聞いてくれるうちに

エ おばさんのことがいやな思い出にならないうちに

問6 線⑤の「やつと決まったことば」とは、どんなことばですか。A にあてはまることばを考えて、十五字以内で書きなさい。

問7 線⑥のように思い出している今の「なつみ」の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア このソファでねむるのも今晚が最後だと思ったので、文句は言わずにもう一晩しんぼうしようと思った。

イ 自分はすぐに泣きそうになる弱い子であったが、この二週間きたえられて少しのことでは泣かなくなった。

ウ 二週間前はこのソファでねむるのがいやだったけれど、今では自分のねむる場所だと考えるようになった。

エ ソファをベッドと呼ぶことに最初はとまどったが、おばさんとくらううちにそうすることになれてしまった。

問8 線⑦とありますが、お父さんからのまれた「宿題の本当の報告」とは、どのようなことですか。次の文の□にあてはまるように十字以内で抜き出しなさい。

おばさんが変わったのは、□と決心したからだということ。

問9 線「金色の道」はこの物語ではどのような意味を持つものとしてえがかれていると考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア おばさんとなつみはおたがいに打ち解けていなかったが、今夜心が通い合おうとすることを示すものとしてこの金色の道はえがかれている。

イ おばさんとなつみはここでしかおたがいを思いやることはできないが、だからこそ大切にあつかうものとしてこの金色の道はえがかれている。

ウ おばさんとなつみにはこの後つらい別れがおとずれることになるが、それを乗りこえさせる力を持つものとしてこの金色の道はえがかれている。

エ おばさんとなつみを結び合わせる貴重なものではあるけれど、いつ消えてしまいかかわらない不確かなものとしてこの金色の道はえがかれている。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。 1 3は段落番号です。

1 芥川龍之介の作品に「桃太郎」という短編がある。① 桃太郎がサル、イヌ、キジを連れて鬼ヶ島に征伐に行く有名な昔話を② 鬼の側から描いた話だ。豊かで平和な暮らしを突然たたきつぶされた鬼たちがおそろおそろ、何か自分たちが人間に悪さをしたのかと尋ねる。すると③ 桃太郎は、日本一の桃太郎が家来を召し抱えたため、何より鬼を征伐したいがために来たのだと答える。鬼たちは自分たちが征伐される理由がさっぱりわからないままに皆殺しにされてしまうのである。

4 笑い話ではない。つい最近まで、いや現在でも⑤ これと同じことが起きていないだろうか。私が子どものころ、アメリカのA インディアンは白人と見れば理由もなく襲ってくるような猛な民族で、力を合わせて撃退し滅ぼすことがa ビダンとされていた。アフリカのB マウマウ団と言えは、のろいの呪術を用いて人々を暗殺する危険な集団で、平和な暮らしを守るために撃退しなければならぬ悪の根源と見なされていた。

しかし、物心ついて世界の歴史を読みあさるようになると、これらの考えが土地を侵略した側が作った身勝手な物語であるとわかってきた。住んでいた土地を奪われ、不公平な取引をさせられ、伝統と文化を捨てることを強いられた人々が抵抗している姿を、悪魔の仕業のように語っていたのである。私は⑥ 物語を作った側にいたただけなのだ。インディアンやマウマウ団を生み出した人々の側にいれば、自分たちの文化や暮らしを踏みにじった人々は鬼ヶ島にやってきた桃太郎のように映ったに違いない。

2 こういった※ 理不尽な物語は民族と民族の間だけにあるのではない。人と動物の間にもある。私が研究しているC ゴリラは、十九世紀にアフリカの奥地でD 欧米人に発見されて以来、好戦的で凶悪な動物と見なされてきた。それは初期の探検家たちが作り上げた物語がもとである。その話に合わせてゴリラはキングコングのモデルとなり、人間を襲い、若い女性をさらう邪悪な類人猿として人々の心に定着した。そのため、E ライオンやゾウと同じような猛獣と見なされ、さかんに狩猟された。

発見以来百年以上たつてから、野生のゴリラの調査が始まり、彼らが平和な暮らしを営むb オンワな性質をもつことが明らかになった。⑦ 現地のアフリカの人々もゴリラを特別視などしていなかった。こういった物語はアフリカを暗黒大陸、ジャングルを悪の巣窟と見なしたがった欧米人の幻想だったのである。それは欧米各国がアフリカに植民する格好の理由になった。暗黒の世界に支配されている不幸な人々に光を当てるためというわけである。

3 人間は話を作らずにはいられない性質を持っている。言葉を持っているからだ。私たちは世界を直接見ているわけではなく、言葉によって作られた物語の中で見ているのだ。言葉を持たないゴリラには善も悪もない。自分たちに危害を加える者には猛然と戦いを挑むが、平和に接する者はあたたかく迎え入れる心を持っている。過去に敵対した記憶は残るが、それを盾にいつまでも拒絶し続けることはない。人間が過去のうらみを忘れずに敵だと思いつけ、それを親から子どもへと受けついで、果てしない戦いの心を抱くのは、それが言葉による物語として語りつがれるからだ。

言葉の壁、文化の境界を越えて行き来してみると、どこでも人間は理解可能であたたかい心を持っていることに気づかされる。個人は皆やさしく、思いやりに満ちているのに、⑧ なぜ民族や国の間で理解不能な敵対関係が生じるのか。グローバル化した現代、私たちはさまざまな地域や文化のI を手に入れることができるようになった。物語を作り手の側から読むのではなく、ぜひC タヨウな側面や視点

に立つて解釈してほしい。新しい世界観を立ち上げる方法が見つかるはずである。

※ 理不尽：道理に合わないことを無理に押し付けられること。

問1 線abcのカタカナを漢字に直しなさい。

問2 線①とありますが、線AとEのなかで桃太郎側のものを選び、記号で答えなさい。

問3 線②とありますが、筆者はどのようなことをいいたいのですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 本日は主人公が鬼であったことをみんなに知ってもらいたいということ。

イ 同じ話であっても、「桃太郎」側と「鬼」側では見方が変わること。

ウ 鬼たちは悪さをしたことを知らずに殺されてかわいそうだったということ。

エ 桃太郎は家来を召し抱え勇ましく戦い、強さでは日本一だったということ。

問4 線③とありますが、「鬼」として「桃太郎」とはどのような存在でしたか。解答らんにあてはまるように二十字以内で抜き出しなさい。

問5 線④とはどのような意味ですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「桃太郎」という短編は、だれが読んでも楽しいおもしろい話ではない。

イ 「桃太郎」という短編は、笑って済ませることができると話ではない。

ウ 「桃太郎」という短編は、過去に実際にあったことを書き記した話である。

エ 「桃太郎」という短編は、しっかり考えることの大切さを教える話である。

問6 線⑤とはどのようなことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の利益を優先させ、相手が悪事を働いたわけではないのに、相手を悪だと決めつけていること。

イ 自分の利益を優先させ、相手の豊かな暮らしが許せず、征伐するのは当然だと考えていること。

ウ 自分の利益を優先させ、おとつた相手を見下し、おろかなものが征伐されるのは正義だと思っていること。

エ 自分の利益を優先させ、危険な相手を見つけたでして、ただちに相手を悪だとせめててていること。

問7 線⑥とは相手をどのようなものとみていたのですか。四字のことばを抜き出しなさい。

問8 線⑦とありますが、どのようにみていたと筆者は考えていますか。それを表す一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

問9 線⑧とありますが、その理由となる一文を抜き出し、初めの五字を書きなさい。

問10 I にあてはまる最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 真実 イ 恩恵 ウ 情報 エ 認識

※

一問1

a

b

いて

問2

問3

問4

問7

問8

二問1

1

2

3

4

5

問2

問3

問4

問5

問6

問7

問8

問9

三問1

a

b

c

※

問2

問3

問4

問5

問6

存在。

問7

問8

問9

問10

※

※

受験番号

名前